

医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	左上大静脈遺残に関連する心房細動へのパルスフィールドアブレーションの有効性
所属科*	循環器内科
研究責任者*	小林 紀之
研究実施期間	開始 西暦 2024 年 12 月 17 日 ~ 終了 西暦 2024 年 12 月 21 日
対象疾患(予定症例数)	(1 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2024 年 12 月 17 日 ~ 至 西暦 2024 年 12 月 21 日
研究概要*	79 歳女性。症候性発作性心房細動に対しクライオバルーンによる初回アブレーションを受けたが、8 か月後に再発し、10 か月後に 2 回目のアブレーションを施行。初回アブレーション前の CT で左上大静脈遺残 (PLSVC) が確認された。アブレーションは深鎮静下に施行。PulseSelect™カテーテルで肺静脈の再隔離後 AF 誘発試験を行ったところ、PLSVC 起源の AF が誘発された。EnSite™により PLSVC の 3D 形状を再構築し、トリガーの最早期部位は PLSVC 後壁に認められた。PulseSelect™カテーテルで PLSVC 隔離を行い、通電前の peak frequency が 150Hz 超で接触良好と判断。冠攣縮評価として PFA 初回通電後に左冠動脈造影を施行したが、スパズムは認めなかった。通電加療を行い PLSVC に広範囲な低電位域を確認して PLSVC 隔離完了。アブレーション後は同条件下で AF は誘発を認めず。左鎖骨下静脈からの高出力ペーシング (10V, 1ms) で左横隔神経機能も保たれていた。PLSVC 隔離の手技時間は 34 分で、有害事象はなかった。PLSVC 起源の AF に対し PFA が有効であった症例でありそれを報告する。
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	連結可能匿名化を行う。 対応表はそれぞれの部署 (施設・研究室) で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。
研究の問い合わせ先*	大阪労災病院

* 記入必須項目